

文化財ニュース いわき

第 79 号

平成 28 年 8 月 4 日

(公財)いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

高橋遺跡の第2次発掘調査成果

— 古代集落跡の調査 —

【現地説明会 平成28年8月6日(土) 10時~12時】

高橋遺跡は、双葉郡楡葉町大字井出字高橋・堂ノ前に所在し、JR常磐線竜田駅の東側、井出川右岸の太平洋に面した標高約17mの平坦な段丘上に立地しています。

今回の調査は、竜田駅東側地域開発事業にともなうもので、楡葉町の委託をうけ、開発区域内の約1,000㎡を対象におこなわれました。縄文時代の遺構・遺物がきわめて多く検出された昨年度の調査区から北西に約20mの地点です。

調査の結果、遺構は奈良時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、縄文時代の竪穴住居跡や埋設土器のほか、溝跡、土坑、ピットなどが見つかりました。遺物は縄文時代の土器や石鏃・石錘、奈良時代の土師器などが出土しています。

今回の調査では、昨年度検出された縄文時代の遺物を多量に含む土層は確認されませんでした。縄文時代と奈良時代の集落が昨年度調査区から今年度調査区にかけて広がることが明らかとなりました。



高橋遺跡(2次)全景



第1号竪穴住居跡を調査しています



カマド東側から出土した土師器



南西隅から出土した土師器

竪穴住居跡

現在までに3棟の竪穴住居跡が確認されています。いずれも調査区の南半に位置し、平面形は方形を呈しています。

なかでも第1号竪穴住居跡は、一部調査区外へのびるものの、長軸6.7m、短軸6.3mの非常に大型のものです。北壁の中央にはカマドが設けられており、煙道が北へのびています。さらには、床面には硬くしまった貼床が施されており、壁に沿って排水用の溝がめぐっています。

遺物は、土師器が主体で、とくにカマドの東側と南東隅周辺から比較的まとまって出土しました。これらの土師器の年代から、第1号竪穴住居跡は奈良時代ごろに使われていたと考えられます。

とじておきましょう。



第1号掘立柱建物跡

掘立柱建物跡

現在までに掘立柱建物跡2棟が確認されています。ほかにも200個以上のピットが検出され、中には柱の痕跡がはっきりと認められるものもあることから、その数は今後さらに増える可能性があります。

第1号掘立柱建物跡は、調査区の中央東壁寄りで検出されました。東側は調査区外へのびるものと想定され、東西に主軸を持つ3間以上×2間の建物になると考えられます。柱の間隔はいずれもおおよそ2.4mで、ほぼ等間隔に配置されています。

この建物にともなう遺物は確認されませんでしたでしたが、竪穴住居跡と同じ奈良時代ごろに建てられたものと考えられます。



柱の痕跡が残る柱穴（平面）



柱の痕跡が残る柱穴（断面）



埋められた縄文土器（第2号埋設土器）

埋設土器

3基が見つかりました。いずれも粗製土器と呼ばれる簡素で文様の少ないタイプの土器が使われています。土器の大きさから、子供のお墓として使用されたもので、縄文時代後期から晩期のものと考えられます。

昨年度の調査成果について

高橋遺跡は昨年度も調査がおこなわれており、大きな成果を上げています。縄文時代では竪穴住居跡や大型の柱穴、配石遺構、埋設土器、ピットなどが多数見付き、縄文時代後期から晩期(約4,000~2,500年前)にかけて大規模な集落が営まれていたことが明らかとなりました。また、奈良時代の竪穴住居跡なども見つかっています。

遺物は縄文時代中期から晩期の土器をはじめ、土偶や石棒・石剣などのおまつりに使う道具や、石鏃などの狩猟具、奈良・平安時代の土師器や須恵器・瓦など多岐にわたって大量に出土しました。土偶の数はとくに多く、そのなかでも男性を表現した土偶は全国的にも珍しいもので、縄文文化を考えるうえで非常に重要な発見となりました。

昨年度出土した遺物の代表的なものは、現在「発掘された日本列島2016」展に展示され、全国を巡っています。



昨年度の調査で出土した土偶
(上・右上：男性を表現した土偶)

とじておきましょう。